

遺伝子情報を活用して 口溶けのいい広島牛を生産

【畜産技術センター】



～オレイン酸割合の高い牛肉「安芸久」の生産～

連携機関 | 畜産技術協会附属動物遺伝研究所
研究期間 | 平成22～23年度[競争的資金]

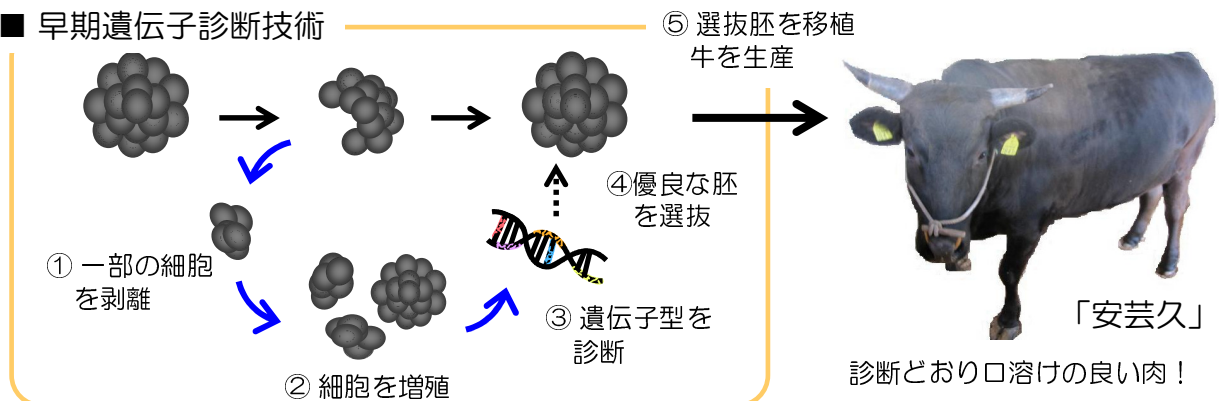
研究開発のきっかけ

- ◆ 和牛といえば鮮やかな「霜降り」。しかし、「どこのブランド牛も同じじゃないの?」、「霜降りの多すぎる牛肉はたくさん食べられなくて…」という声が年々高まっています。
- ◆ そこで「広島牛」の新たな魅力として牛肉の口溶けを良くする「オレイン酸」に注目しました。

研究成果の概要

- ◆ 早期遺伝子診断技術は、受精卵が細胞分裂した胚の一部を利用して、優良な遺伝子型を有するかどうか判断する方法です。優秀な胚選抜は、効率的な広島牛の生産を可能にします。
- ◆ 「安芸久」は、この技術で「オレイン酸」割合を高くする遺伝子型をもつ胚を選抜して作出しました。
- ◆ 「安芸久」は、想定どおり「オレイン酸」の割合が高く、試食会(食べ比べ)で7割以上の方が口溶けが良いと回答しました。

■ 早期遺伝子診断技術

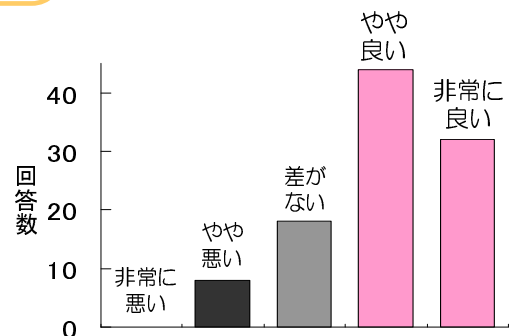


■ 「安芸久」の試食会



【問】安芸久の口溶けは？

〔同格の肉牛と比較〕
回答者 102名



研究成果の活用状況

- ◆ センターで保有する種雄牛は、この早期遺伝子診断技術を活用して効率的に選抜していきます。
- ◆ オレイン酸は、「広島牛」の新たな魅力として活用することが検討されています。
- ◆ 現在、より短時間で診断する方法を検討し、高付加価値な胚の配布体制の確立を目指しています。

問い合わせ先 | 畜産技術センター 技術支援部 | TEL 0824-74-0331